自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の中で当たり前に暮らす・人間の尊厳を大切に」を理念に掲げ、自治会の行事や散歩や買い物など、出来るだけ入居者様に地域に出て頂ける機会を作っている。	現在は「いつも一緒に」を、左記理念より更に具体的なものとして再提示し、職員一同実践に向け努力している。	解り易い理念となった。今後は実践に向けた、具体的な行動に結び付けられたい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、行事等に参加させてもらっているが、今年度は、インフルエンザの流行もあって、参加回数、人数も少なかった。	事業所として自治会に加入し、地蔵盆や子供みこし等の祭りの会議や準備に参加。又、地域の清掃や夜回り等の行事にも参加している。	今後も地域の一員としてつながりを大切にし、地域の方々にも頼られる事業所となれるよう、日常的な交流を続けられたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度、管理者、副主任は、市の認知症コーディーネーター養成に参加し、現在、他の事業所と取り組んでいる最中である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、評価の報告や、実際の取り組み内容等を伝えたり、入居者の日頃の様子も伝える。また、家族より意見が出やすいように、グループに別れ、意見交換をしたりした。	昨年は新型インフルエンザの影響で、外部との接触を控えた為（法人の方針）、７月のみの開催であった。自治会や市の職員の参加、又、家族の参加者も多い（１２名）。	議事録はフォームも整い、見易いものとなっている。参加出来なかった家族には、ホーム便りに添えて議事録も届けられたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を蜜に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	市役所での会議や勉強会に参加するとともに、電話連絡だけでなく、必要に応じて市町村担当者へ足を運び、直接、意見交換を行っている。	市職員の運営推進会議への出席や、市開催の催しへの参加など、お互いに行き来し密接な関係を築いている。	運営推進会議時、市職員には会議への参加だけでなく、事業所の現場をよく見てもらい、実情を実感してもらう事も必要である。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	グループホームの玄関は、オートロックになっているが、他の所から自由に外出できる様にはなっている。また、身体拘束の禁止についても、その都度、資料や会議にて身体拘束について説明し、周知する様になっている。	２～３階のエレヴエーターは自由に昇降できるが、１階玄関は道路に面している為、安全対策によりオートロックになっている。	安全対策の為１階玄関は施錠しているが、鍵をかけないケアの必要性を職員が理解しているかが大事な事である。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	朝礼やユニット会議にて、説明を行っている。新聞や情報などが入れば、その都度、回覧し、掲示している。また、現場の職員の対応なども、常勤が見直し、ユニット会議にて話し合っている。		

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などで知る機会は得ている。個々の必要性に対しては、上司とも話し合いながら、手続きをされている方については、経過の報告等もしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その際にも、家族様に尋ねている。それまでにも、契約締結や解除前にも、家族様との話し合う機会を、必要に応じて作っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関、各階と意見箱は設置している。また、家族より、意見や要望が聞く事が出来た時は、随時、記録に残し、上司に報告、相談させてもらい、早急に対応出来るように努めている。	各階「意見箱」の付近には専用の記入用紙と筆記具が備え付けられている。実際は、口頭で意見や要望が寄せられる事が多い。	意見・要望・不満等が寄せられた後は、両者間で止めず、運営推進会議や便り等で公表し、隠し立ての無い運営に邁進されたい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	4ヶ月に1回の、面談を行っている。それ以外でも、出来るだけ、日々、上司から声をかける様にし、話すきっかけ作りを意識して取り組んでいる。	１年に２回の人事考課時に、個人的に聞く機会を設けている。その他、日々コミュニケーションを図るよう、管理者は心掛けている。	職員が話しかけ易い環境作りに心掛け、アイデアや提案が職員から沢山出るような事業所となりたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に1回、人事考課を行い、職員の仕事や意欲などを評価している。また、給料やボーナスなどは、人事考課が反映されている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加させてもらい、その研修で知り得た方法を、ユニット会議などで、他の職員に伝え、現場で取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム交流会を通じ、他のグループホームの方達とも意見の交換が出来る場がある。他事業所の行事にも参加している。		

Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居するまでに施設の見学をして頂く機会を設け、本人が不安を感じている場合、時間ををかけ安心して頂ける様本人、家族に話合える機会を持てるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居するまでに施設の見学をして頂く機会を設け、本人が不安を感じている場合、時間ををかけ安心して頂ける様本人、家族に話合える機会を持てるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	開始するまでにコミュニケーションを図り本人、家族の希望に添える様情報、状態の見極めにセンター方式の使用に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	多忙な時には一方的にお願いしている時もある。全職員が支えあう関係を意識するよう指導していきたい。		
19		○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の気持ちの代弁者として職員がお互いの理解者になれるように努めれるように努力していきたい。		
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの場所に出かれられる機会に努め、友人が面会できるよう支援に努めている。馴染みの場所や人に疎遠にならない様に努めて行きたい。	理・美容院への通いやスーパーへの買い物、又、墓参りなど、本人の馴染みの場所へ行き、関係を続けている。	今後も、一人ひとりのこれまでの人間関係や馴染みの場所等の把握に努め、関係の維持に努力されたい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係は理解出来ているが、職員の対応不足によりトラブルが起こっている。事前に対応出来るように努めて行きたい。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時に、何かあればいつでも相談頂ける様に声をかけている。		

Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望は、入居者からの訴えがあった時関わりの中で知るようにしているが十分な把握が出来ていない。職員の多くが理解出来ていないのが原因である。	会話や表情などから、思いや意向の把握に努めている。が、職員の質の差により十分とは言えない。	日々生活の関わりの中での気づきを重視し、思いや意向を汲み取ることに心されたい。職員には、気づきの大切さを認識させたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	情報としての理解はあるが、なぜ必要なのか、十分な理解が出来ていない。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の日々の生活に職員がどう関わっていくべきか職員一人一人の理解に大きな差がある。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月二回のケアカンファレンスを行い、家族からの情報を提供しあい、作成している。本氏、日々の生活で必要な意見やアイデアを家族と話合いながら出していきたい。	見直し期間を、長期４ヶ月、短期１～２ヶ月と設定しているが、その他その時々で臨機応変に見直しをしている。	介護計画は設定期間に捉われず、本人や家族の要望を取り入れた入居者主体のものとなるよう作成されたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来ていない。日々の様子・ケア・結果・気づきに対しての記載ではなく、職員の感じた事柄の記載になっている。記録の必要性について理解し行えるよう努めて行きたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人本部の行事に参加をしている。本人と家族の状況により可能な場合、個人の支援を行えるよう働きかけに努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の得意な事・地域の行事・興味のある催しなど、気晴らしの出来るように支援えを行っている。職員の状況により時間を作れないときもあるが、入居者が楽しめることが出来るよう支援に努めたい		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族に説明を行い、本人・家族の希望をふまえ訪問診療希望の方は青山クリニック。以外の方は希望病院に受診・入院出来る態勢につとめている。	入居者本人や家族の意向に沿って訪問診療は協力医療機関の青山クリニックを受診している。入居者・家族の希望でかかりつけ診療機関受診も出来ている。家族の要望があれば、ホームで付き添い・送迎も行っている。	これからも入居者の意向に沿っての支援を期待する。
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	看護師が月曜日から土曜日まで常時おり体調変化の対応のアドバイス・指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	情報保護法により入院中の本人の情報は家族より提供して頂き状態により支援できる体制に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の変化に応じ家族・上司・病院と話合いをその都度行っている。対応について職員間統一するようとりくんでいる。	重度化した時の対応は入居開始時の説明で十分伝えている。ホームでの対応に限度があり入居者の体調変化が生じたときは家族とともに対応を検討し、関連機関を含めて入所先の検討をしている。	グループホームとして終末期には限界を感じている。「看取り加算」が出来たことはグループホームに看取りをも含めた対応を期待していることとも思われる。今後のホームの方針を法人とともに考えて頂きたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応のマニュアルや応急対応について周知するよう行っているが、実際実践出来る職員が限られている為全員対応できるよう実践力をみにつけるよ努めていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の消防訓練を行っている。避難方法を再確認し消火器の使用方法について職員に体験してもらっている。	消防署の協力の下に消防訓練は実施している。地域とは自治会なども違うため訓練参加はしてもらえていない。地域の連合会の避難訓練には職員が参加している。	地域の方々にホームの存在を認識していただき、何かのときは援助もしてもらえるよう、これからも地域との交流につとめられたい。

Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重やプライバシーについての理解は職員に個別に説明を行っているが、言葉使いに関しては同年代に話し掛ける言葉が多く、人格の尊重に関しては理解不足がある。	人格の尊重、プライバシーを損ねない対応は法人の協力・指導もあり細かく研修はしている。ただ、一部の職員はまだ其れをしっかり実行できていない。	介護者として適切に対応している職員が多い中、親しさをこめることと、馴れなれしい対応の違いを認識していない職員もいるとのことである。違いを理解して適切に対応されることを望む。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者により選択方法より職員の決めつけにより選択できるよう支援出来ていない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来ていない。職員自身時間がとれると思った時に入居者に声をかけたり、時間をかけている。他の場合は早口や、せかすような対応になっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来ていない。本人が持っている中より職員が選んでいる。本人に確認しながら選べていない。髪が乱れていてもそのままになっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来てない。職員一人ひとりの理解の違いと経験により差がある。	食事の献立作りなど、各ユニットごとに特色を出している。出来る人は盛り付け、片付けなどを手伝っている。献立の栄養面のチェックは、法人内の管理栄養士に点検してもらい指導を仰いでいる。時々、昼食時に、お好み焼きなどをすると大変活気がある昼食になるとのことである。	ユニットによっては入居者が食事づくりに参加することの大切さの理解に差がある。入居者にとり役割のある生活を・・ということの理解に向け、取り組んで欲しい。入居者が自前の食器を使用していて、自分で選んでいることはさりげないことではあるが、認知症には効果的である。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	出来てない。職員一人ひとりの理解の違いと経験により差がある。記入欄を設けているがチェクをするのみになっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員一人ひとりに意識の違いがある。口腔ケアは食後にするもので形のみでしている・しなければどう影響するかを理解してしっかりケアし、本人の状態を確認できる。全職員理解できるようにしたい		

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	日中・夜間の状態を観察し、パターンを活かした時間の調節・日中はずすなどの支援を行っている。	排泄パターンを把握し時間を見て誘導することにつとめている．また薬に頼らない支援をホーム全体でしっかり取り組まれていることは、大変評価できる。	薬に頼らない支援を今後とも継続されることを期待する。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	影響の理解や工夫に対しての取り組みは職員により差があり、指示がなく自己判断で行えない職員がいる。自己判断でできるように指導を続けていくように努めていく。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	日にちがあいているいる方より誘っているが本人希望の場合、時間・状況によりできるだけ支援を行えるよう努めている。	お風呂が好きな入居者は毎日楽しみにして入っている。最低週２回は各入居者に入浴してもらうように、毎日お風呂は沸かしている。入浴したがらない入居者の支援に努力されている。	今後も入浴が楽しみな時間となるよう、個々に添った今までの入浴支援を続けられたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人個々の状況に応じて対応を行っている。本人より訴えられない方・体調変化をおこされる方に職員支援するよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療用ファイル・個人の服薬袋に手書きで記入し確認を行なえるよう努めているが、症状の変化についての理解が低い為職員の理解に努めていく。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	情報をケアプランにあげているが実行出来ていなかったり、継続できていない。職員の理解不足もある為理解ができ日々の支援について理解できるように努めていきたい。		

49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出・散髪など希望時に支援できるように努めている。また、本人が希望される場所については家族・上司と相談し希望に添えるよう支援を行っている。	希望があれば、買い物、散髪など外出の支援はされている。ユニットごとに年に１～２回中遠出の外出をしている。	ユニットにより外出支援に差が有ると思われるが、戸外に出ることの精神的、身体的なメリットも考え、できるだけ近距離散歩などを日々取り入れて欲しい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時に家族え説明行っている。自己管理の方は買い物時に所持金にて支払って頂いている。立替の場合、レジにて本人が支払えるように支援をおこなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族の希望もあり連絡のやりとりを行える方に対しての支援は行えている。その都度家族に職員より説明の連絡を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時期により季節感の飾を変えるよう努めている。入居者が落ち着けれる環境については今後も支援をしていく必要がある。	リビングには広い和室もあり、ユニットごとに特色ある設えになっている。玄関脇には野菜などを植えるコーナーもあり、出来る入居者は職員とともに野菜作りを楽しんでいる。	掃除担当の職員を配置して、介護担当職員に余裕を持たせている。今後とも、居室、リビングなど清潔に保たれるように期待する。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	場所によってくつろげる空間が持てるように工夫を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使用されていた家具などを持参して頂出来るだけ使い慣れた物を居室においている。その他にも家族に協力して頂、個人の希望に添えるよう努めている。	各居室の窓側に廊下のような板の間があり居室は広い。多くの入居者は自分の愛用の家具をおいたり、家族の写真・仏壇を持ち込んで自分の部屋という感じに設えている。しかしそのようになっていない部屋も一部ある。	愛用の品などの持込の少ない居室には、職員が工夫して補っていただけるとなおありがたい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に行動できるように見守り、自己判断を本人が出来るよう支援に努めているが、職員の理解不足もあり本人の力をとめている。		

Ⅴ　アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の３分の２くらいの ③利用者の３分の１くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の３分の２くらいが ③利用者の３分の１くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられれている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の３分の２くらいが ③利用者の３分の１くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の３分の２くらいが ③利用者の３分の１くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の３分の２くらいが ③利用者の３分の１くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の３分の２くらいが ③利用者の３分の１くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の３分の２くらいと ③利用者の３分の１くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の３分の２くらいが ③職員の３分の１くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の３分の２くらいが ③利用者の３分の１くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の３分の２くらいが ③家族の３分の１くらいが ④ほとんどできていない